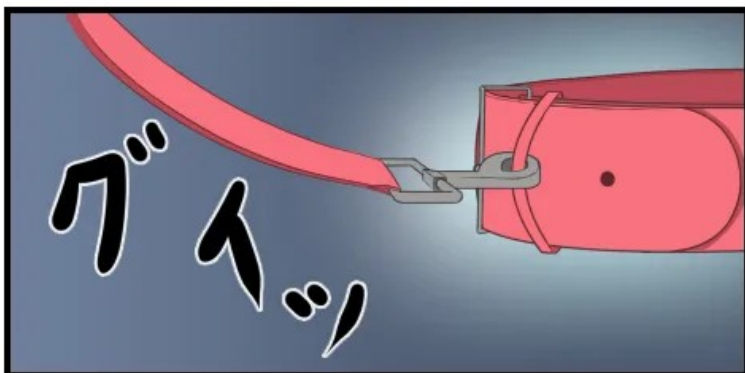
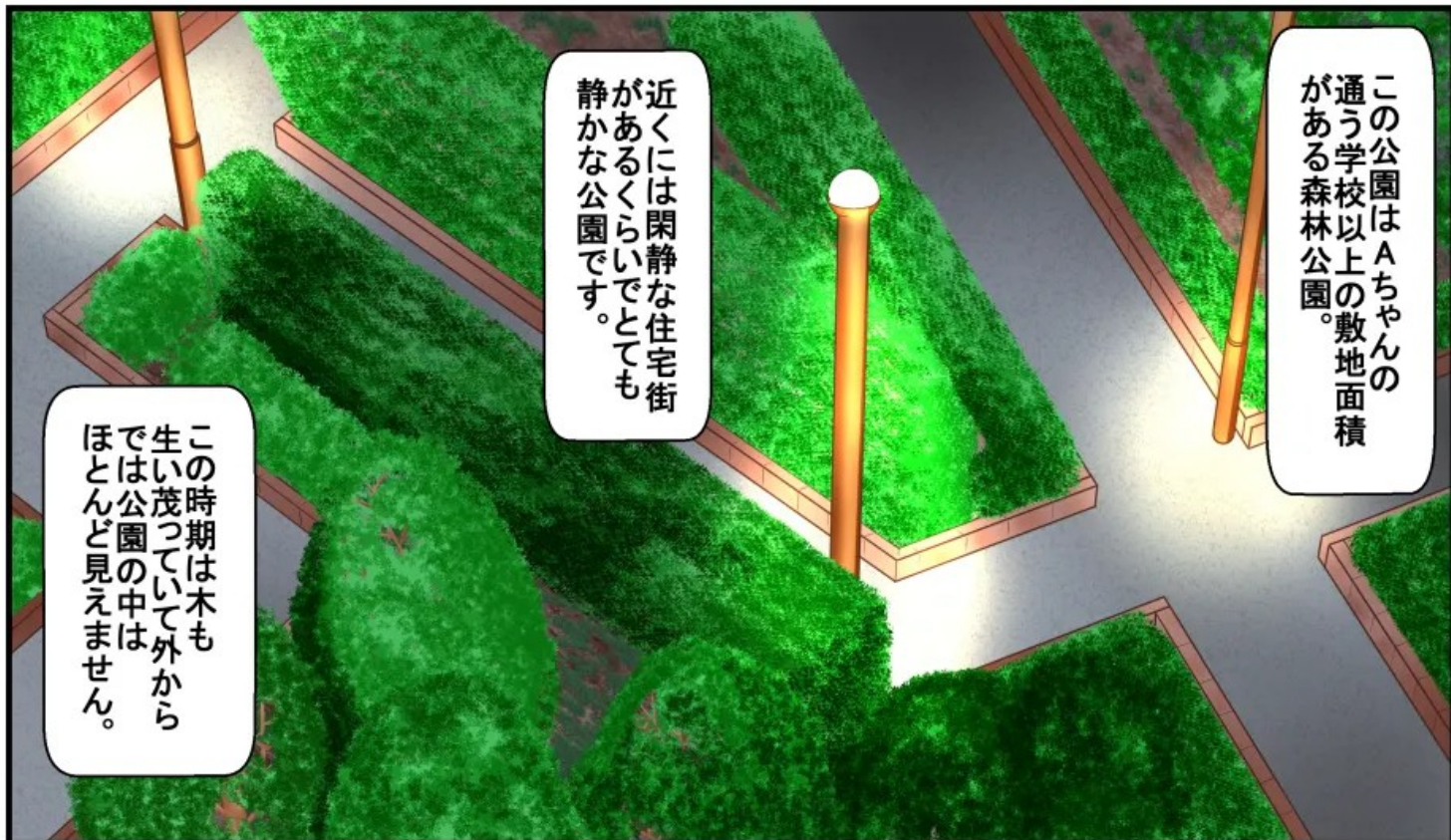




読み聞かせ風
少女体験談 その6







この公園はAちゃんの
通う学校以上の敷地面積
がある森林公園。

近くには閑静な住宅街
があるくらいでとても
静かな公園です。

この時期は木も
生い茂っていて外から
では公園の中は
ほとんど見えません。



駅や街からも離れた
この場所に夜に來ると
したらAちゃん達の
ように特殊なプレイを
したい人達が
ほとんどでしょう。

ズルッ



夜になると帰宅する為
に住宅街に続く道を
たまたに通る人がいる
程度。

Aちゃん達が歩いて
いる道を使う人はあ
まりいません。



Hちゃんは
明るい道を選んで
歩いていました。



夜と言っても
街灯もあり、あまり
暗くありません。



一番驚いたのは
最後にすれ違った
女の子同士のカップル



女装した男性、
水着姿の女の子
様々な格好の人々
とすれ違いました。

意外と人がいる事と
普段見慣れない光景に
Aちゃんは驚きました。



H「ここはいろいろな
性癖の人達が
集まる場所なの。」

A「あのつご主人様
今の人達って？」



H「露出狂もね。」

H「全裸で歩く人は
少ないけどね。」



Aちゃん達と
同じ目的(露出)で
ここに來ていたからです。

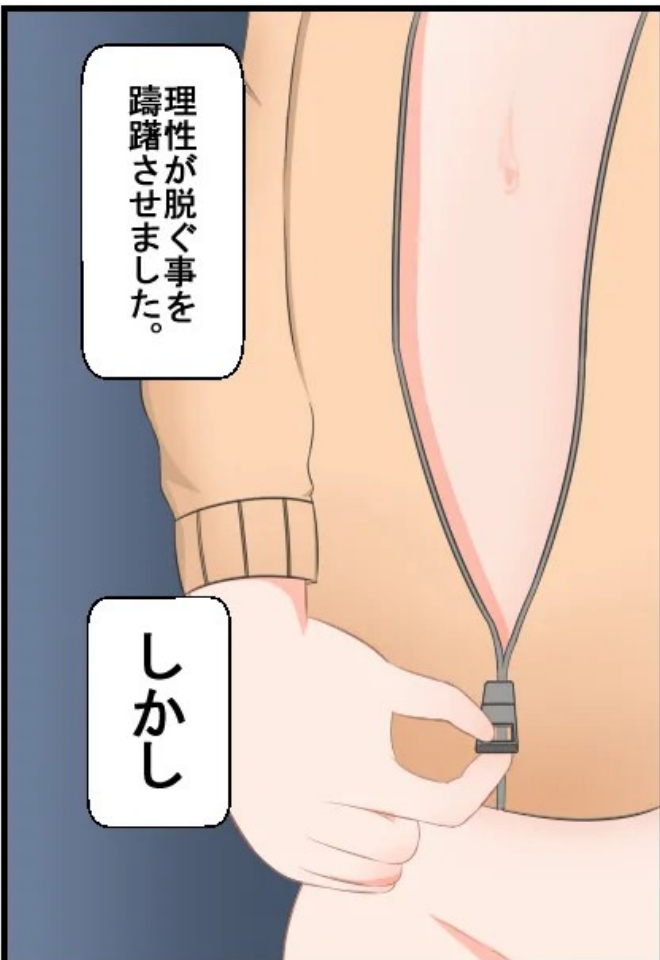


H「人間が全裸で
歩いてて犬が服着てる
のはおかしいよね。
パーカー脱いで。」



H「それな事より
語尾に「わん」を
つけ忘れたよね？」

H「言いつけを守れない
悪い子にはお仕置きが
必要だよな。」









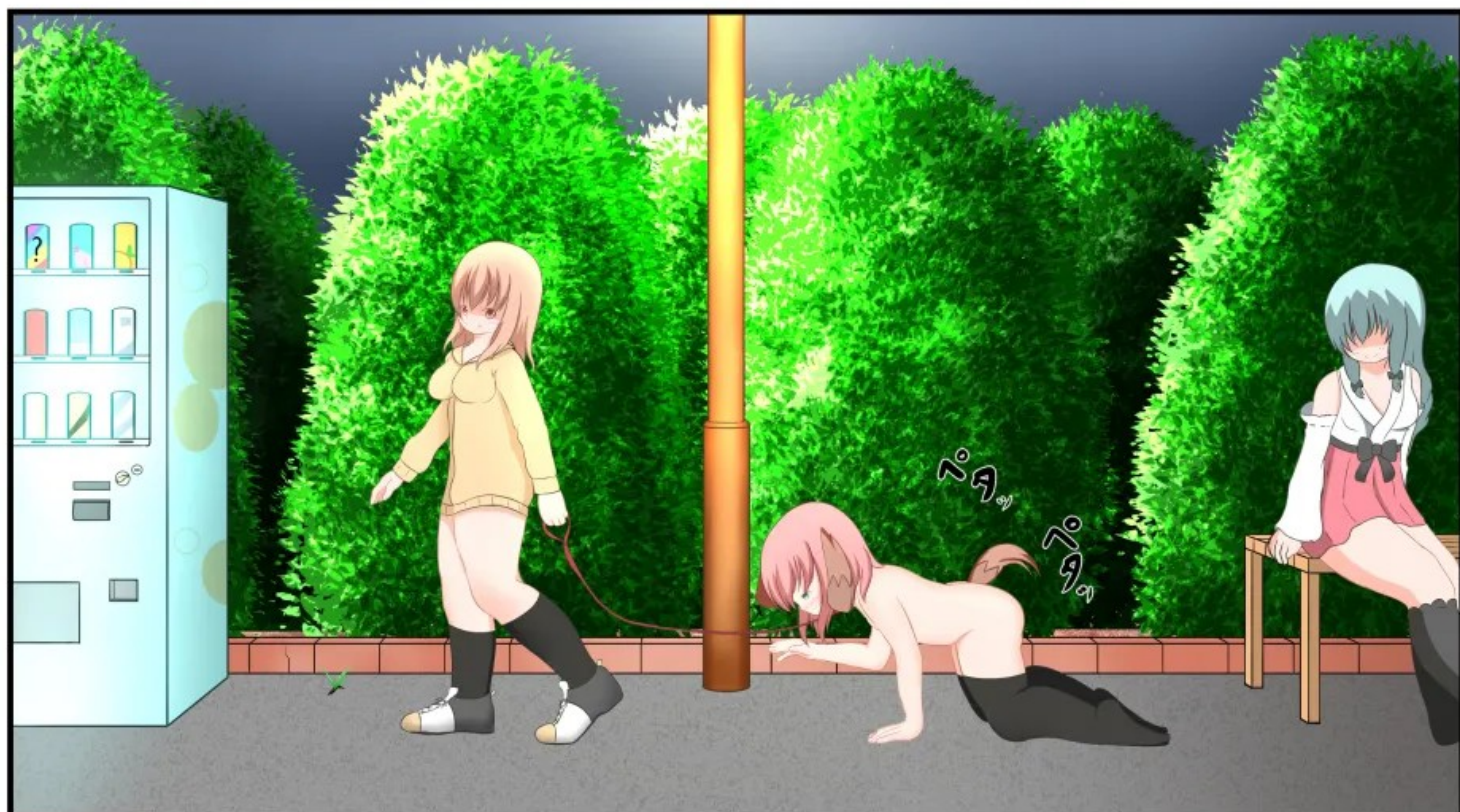
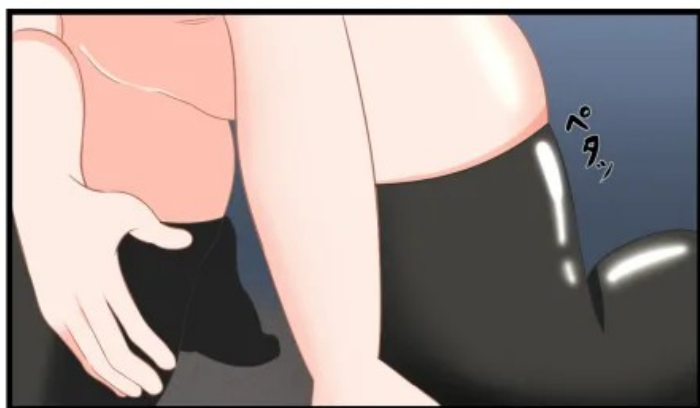


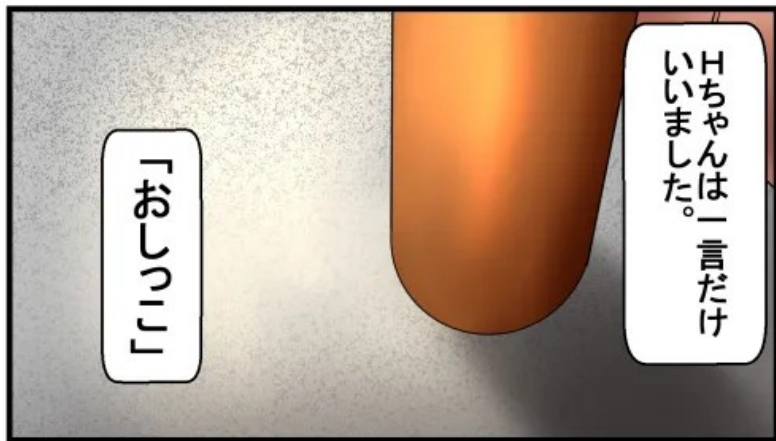
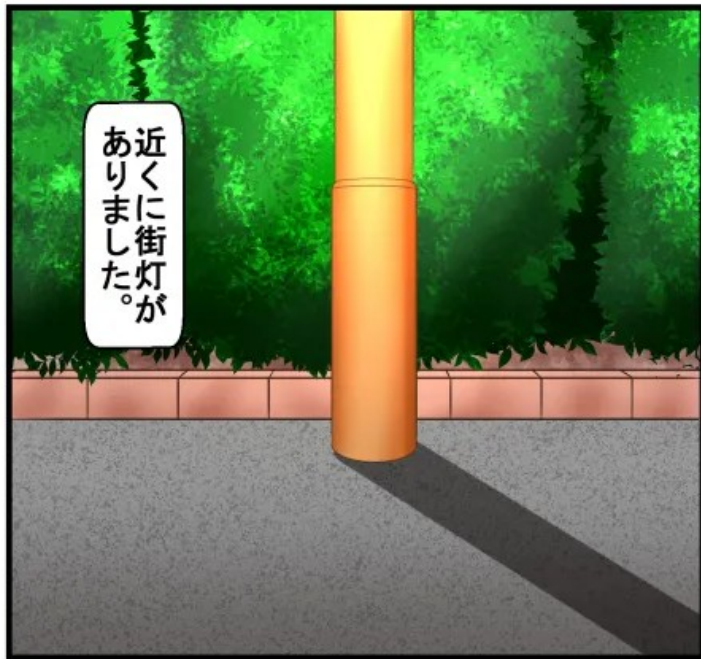
Aちゃん
は10人位
の人達と
すれ
違いま
した。

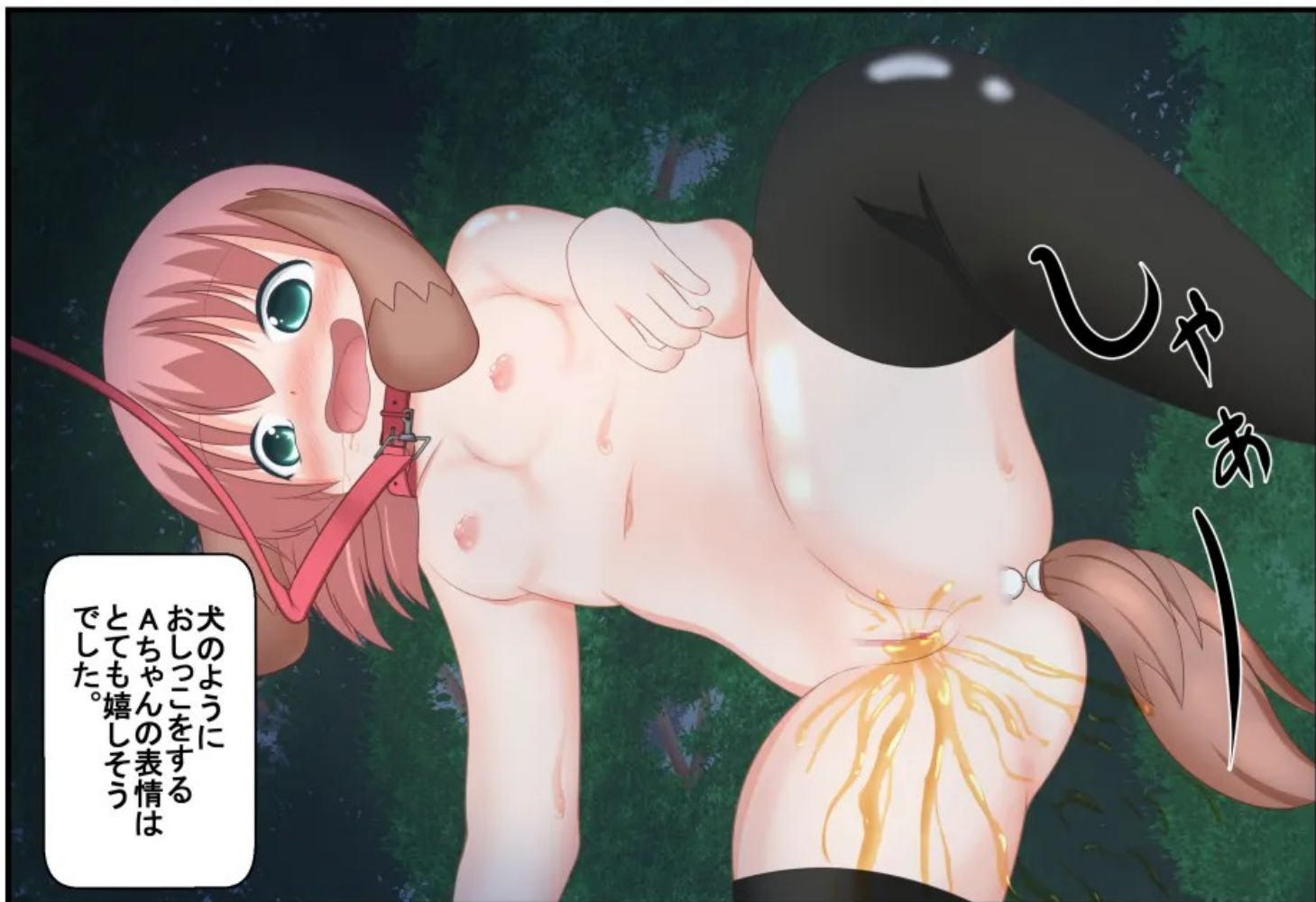
まじまじとみつめる人、
茫然としている人、
「ここまでするんだ。」と
呆れている人など
さまざまな反応を
向けられました。



Aちゃん
はとて
も恥ず
かしい
思いを
しまし
たが、
「やめ
たい。」
とは
考え
ませ
んでした。





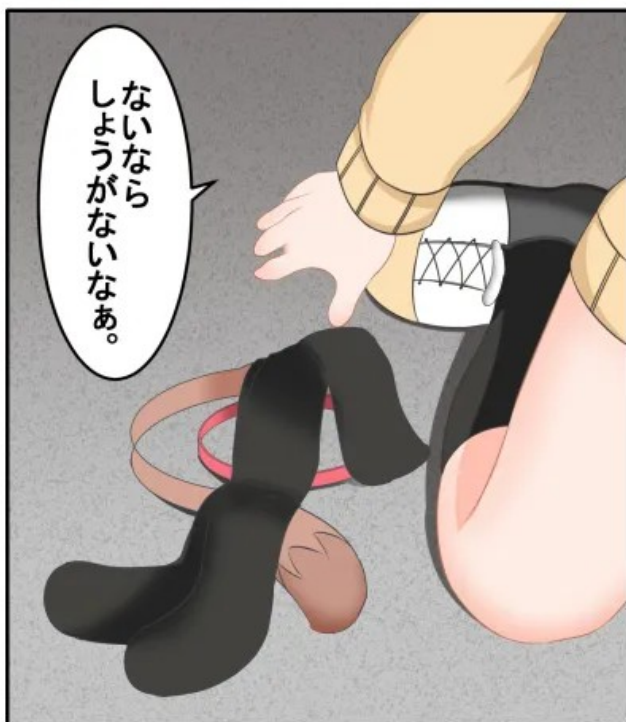


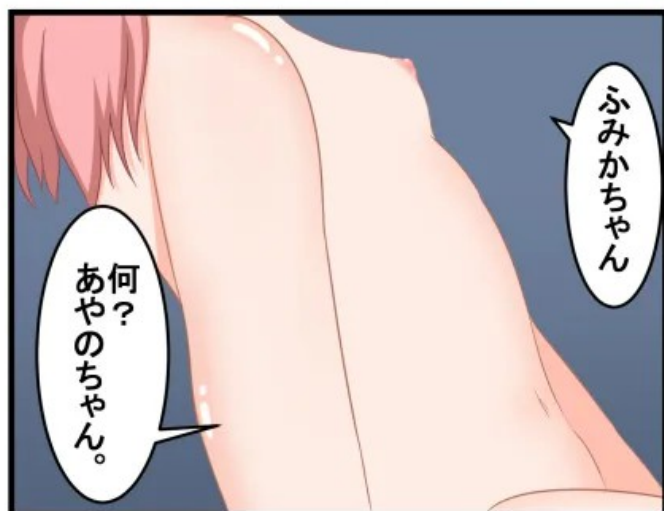
犬のように
おしっこをする
Aちゃんの表情は
とても嬉しそう
でした。

しゃあー



おまけ





あ と が き

今回は割と早めに完成できたと思います。

2ヶ月で18ページカラーで悲鳴を上げている自分

本当にプロの方はすごいと改めて思った夏でした。

さくさく

もう一度お散歩して
いただいてありがとうございますわん。

次もこの公園で
お散歩したいわん。

おしっこをするように
命令してください。
明るい道を歩いてください。
犬と認識できる物以外を
身につけさせないでください
えつと、それから……

